



感震ブレーカー

弊社ではエリアごとに、2社の感震ブレーカーを採用しています。

＜東日本エリア＞ 河村電器産業(株)

感震ブレーカーは、地震による揺れを感知した際、状況に応じた遮断動作をします。ランプやブザーによる警報と電気の遮断を最適に組み合わせることで、電気火災のあらゆる可能性に対応し、大切な家を守ります。



基本動作		停電時の動作	
CASE 01	基本の動作 揺れを感知した後、3分間の警報を発して主幹ブレーカーを遮断。警報の断続音は、最後の30秒間で連続音に変わり、避難の緊急性を通知します。	CASE 02	安全を確認できたとき 揺れを感知した後、3分以内にリセット(警報停止)スイッチを押すことで、警報と主幹ブレーカーの遮断を停止できます。
CASE 03	揺れの直後に停電が発生 揺れを感知した後、3分以内に停電が発生した場合は、復電と同時に主幹ブレーカーを遮断します。	CASE 04	揺れの直前に停電が発生 停電後8秒以内に揺れを感知した場合は、復電直後に主幹ブレーカーを遮断します。 <small>* 発電所や変電所に地震波が先に到達し、停電になる場合があります。</small>

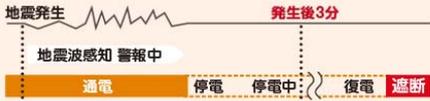
＜西日本エリア＞ Panasonic(株)

震度5強以上の地震を加速度センサーで感知した場合、分電盤の主幹ブレーカを強制遮断して電源を切るため、避難時にブレーカを切り忘れても、通電火災の防止に役立ちます。



ケース1 地震波感知後、3分以内に停電した場合

地震がおさまって、復電したときに主幹漏電ブレーカを遮断



地震発生

発生後3分

地震波感知 警報中

通電 停電 停電中 復電 遮断

ケース2 地震波感知後、3分以内に停電しなかった場合

感震ブレーカーが3分後*に主幹漏電ブレーカを遮断



地震発生

発生後3分

地震波感知 警報中

通電 遮断

※夜間などに地震が発生した際に避難経路の照明電源を確保するため、3分間の通電時間を設けています。また即時遮断に設定変更も可能です。